

プレス

鉄板を大型プレス機で切断と成形をしています。



製造工程

各工程の所要時間の短縮と作業効率の向上を図り、より多くの部品を生産するために、工場内は生産ラインの流れがONE WAY(一方通行)で構築されています。

出荷

出荷時刻表に合わせて、完成部品を出荷しています。



組立

(マフラー・ボデー生産)

成形された部品を専用のロボットが溶接し、組み立てていきます。



【特集】 地域とともに歩む ものづくり

瀬原工業団地への企業誘致から21年～株式会社フタバ平泉～



町では「にぎわいと活力を生み出すまち」を基本目標の一つに掲げ、魅力ある仕事の創出と安定的な雇用の確保を図るため、町内企業への継続的な支援と新たな企業の誘致に取り組んでいます。今月号の特集では、町の誘致企業として操業開始から21年目を迎えた「株式会社フタバ平泉」についてご紹介します。皆さんも道路から一度は目にしたことがある、あの植え込みのある会社です。

企業立地への強い思い

平成11年6月に締結した立地協定。これは、企業誘致を地域発展の推進力とした点と、岩手における生産拠点を自社だけで展開できる用地を探していたフタバ産業(株)の考えが合致し、念願だった自動車関連産業の企業誘致が実現した瞬間でした。立地決定当時、森林のままだった瀬原工業団地(写真1)を翌年の操業に合わせて急ピッチで開発したことから、双方の立地への強い思いが今も伝わってきます。



写真1 平成11年に整備中の平泉瀬原工業団地



写真2 フタバ平泉が操業後の平泉瀬原工業団地

ボデー・排気系部品を生産

製造しているのは、トヨタ自動車販売するヤリス、ヤリスクロス、アクア、C-HRなどの自動車用マフラーなどの排気系部品やボデー系部品。完成した部品は、そのほぼ全量をトヨタ自動車東日本(株)の大衡工場(宮城県大衡村)と岩手工場(現在のトヨタ自動車東日本(株)岩手工場)で生産する。地調達化を進める生産拠点として創立されています。

令和4年から第2工場が操業予定

今後の受注増に対応するため、敷地内では第2工場の建設が進められています。生産設備の増強により、現在混在している生産ラインを分割して生産効率をさらに高めることで、東北におけるトヨタ車生産の拠点化を支えます。

第2工場の建築面積は、6200平方メートルで令和4年5月の操業を予定し、売上額の大幅増による地域経済の活性化と地元雇用の拡大が期待されています。



第2工場の完成イメージ(手前の建物)

Interview



株式会社フタバ平泉  
うめむらつぎひこ  
梅村次彦 代表取締役社長

地域とともに成長し、愛される会社を目指す

平泉町で操業を開始して21年目を迎えますが、ここまで操業を続けてこられたのは、何よりも町の皆さんに支えていただいたからこそであり、心から感謝しています。

私たちの仕事は、たくさんの人と夢を乗せて走る車の製造に携わる仕事です。今この時も、ここ平泉で生産された部品を使った車が日本中、そして世界中を走っていることに、「ワクワク」と「誇り」をもって、日々仕事に取り組んでいます。

百聞は一見に如かずの言葉のと

おり、ものづくりの現場は大型機械のプレス音や溶接の火花、ロボットの精密な動きなど、実際に見て感じていただきたい魅力がたくさんあります。「フタバ平泉」は、気軽に工場見学に来ていただけるような、町民の皆さんが身近に感じられる会社でありたいと考えております。

今後も従業員一人ひとりが自ら考えるとともに、未来に向かって地域と共に成長し愛される会社を目指し、町の発展に貢献し続けて参ります。



◀工場内に展示された「ヤリス」のボデー見本。緑に着色しているところが、フタバ平泉で生産している部品

株式会社フタバ平泉	
所在地	平泉町平泉字上徳沢 65番地
創立	平成12年2月
資本金	4億9,500万円
従業員数	226人(男性203人、女性23人)
敷地面積	敷地総面積: 約77,000㎡ 第1工場: 約17,000㎡ 第2工場(建設中): 約6,200㎡